

2025

同友しずおか7



VOL.560

「入ってよかった」「続けてよかった」「誘ってよかった」「企業も地域もよくなった!」



私の逸品
(有)浜名ファーム
大久保町（浜松市）を農業
でデザインする



静岡県中小企業家同友会



中小企業家同友会とは

静岡同友会は1974年に71名の経営者が呼びかけあい、設立されました。約1,100名の経営者が、「経営体質の強化」「経営者の能力向上」「経営環境の改善」をめざし、活動しています。全国各地で開催される全国大会をはじめ、県全体で行う定時総会・全県経営フォーラム、また、経営課題別の専門委員会、県下11支部での活動、行政や関係諸団体との懇談、連携等、多岐に亘る活動をしています。

同友会3つの目的

1 よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

2 よい経営者になろう

同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

3 よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

- 社長はいつも孤独
- 経営の成功体験しか聞けない
- 目の前の仕事に追われる毎日
- 指示待ち社員ばかり
- 経営の悩みを相談する仲間ができた
- 失敗談から勇気とヒントをもらえた
- 将来の会社のビジョンができた
- 自発的な社員が増えた

その答え、
同友会にありました。

会 員 募 集 中

経営者同士だからこそ話せる
悩み、解決へのヒント、将来への展望。
体験してみませんか？

静岡県中小企業家同友会 TEL/054-253-6130



◆ 静岡同友会 2025年ビジョン 「企業づくり・地域づくり・同友会づくり」

◆ 企業づくり ◆

私たちは、関わる全ての人々が「成長」と「幸せ」を実感できる企業をつくります

◆ 地域づくり ◆

私たちは、中小企業と地域が手を取りあい、人々の幸せが見える地域をつくります

◆ 同友会づくり ◆

私たちは、企業と地域を守る経営者の^{きょうじ}矜持と努力を結集し、
学び・気づき・ワクワク溢れる活動を通して県下1500名会員を実現します

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数 1082名

| 氏名 | 社名・事業 | 所属支部 | 紹介者 |
|-------------------|---|------|-------|
| あき た 秋田 ひろし 大 | 中外電気工業(株) 電力設備工事・保守、一般電気工事、空調設備工事、水道施設工事、浄化槽設備工事、厨房設備工事・販売、他 | 御殿場 | 北田 記章 |
| さか もと 坂本 かず ひこ 和彦 | なごみ・つむぎ整骨院 接骨業、トレーナー業、大会救護 | 御殿場 | 関 裕子 |
| や た 矢田 きよ み 清美 | 善行建設(有) 建設・不動産業(新築、リフォーム、不動産売買、賃貸) | 三 島 | 田中 友寛 |
| やま だ 山田 しお り 汐莉 | Lounge Robin ラウンジ | 志 太 | 青島康一郎 |

名義変更による新名義人 (敬称略)

| 氏名 | 社名・事業 | 所属支部 | 旧名義人 |
|-----------------|-------------------------------------|------|-------|
| さか た 坂田 かず き 和基 | 税理士法人 セカンドオピニオン 税務代理、税務書類作成、税務相談 | 静 岡 | 伊藤 寿英 |

※新会員の写真は e.doyu 「ユーザ名簿」に掲載します。e.doyu からのご確認をお願い致します。



大久保町（浜松市）を農業でデザインする

(有)浜名ファーム (浜松支部)

代表取締役 木下 武明氏



水耕栽培に力を入れる

地元大久保町を助けるハブ的存在へ
(有)浜名ファームは、静岡県西部の浜名湖近くにある、水耕栽培を主としながら地元大久保町と地元の農家を応援している会社です。平成7年11月に創業し、農地を広げながら、年間の日照率が全国でもトップクラスという気象条件と三方原用水を味方に、水耕三つ葉の栽培と販売を拡大させてきました。木下氏は、

令和5年に仲間の推薦から代表取締役に就任。その後、水耕栽培だけでなく、規格外野菜や売れない野菜を捨てないためのお店である無人販売所『ここくる』の運営をスタートさせました。またそれだけでなく、浜松の飲食店40店舗と地元農家60人をつなぐハブ的存在として、日々精力的に活動しています。



木下 武明氏

効率と環境を重視したこだわりの水耕栽培
(有)浜名ファームは、病害虫のリスクが低く天候や気候に左右されない水耕栽培を中心に、現在、三つ葉とトマトを主力として耕作放棄地を活用し露地栽培にも力を入れています。社内の資源や社員のスキルを活用して、全員の知恵で、みつ葉をできるだけ簡単に商品化する作業ライン作りや、圃場作りを実践しています。また、社員

の独立起業も応援しており、全員にパソコンを渡し、生産・販売のデータ管理や収益化の指導をするなど、忙しい中でも社員の育成に力を注いでいます。
規格外農産物の廃棄を減らしたい
現在の日本では、規格に合わない農産物の多くは廃棄処分され、食品ロスを増加させる一因になっています。そのような問題をいち早く解決するため、木下氏は無人販売所『ここくる』の運営をスタートしました。使用しなくなったバスをお店にするというアイデアから、多くの人が『ここくる』に集まり、日々賑わいを見せています。環境保全、子どもたちの食育、耕作放棄地の活用などにも貢献しています。



水耕三つ葉を栽培



新鮮な野菜を手に笑顔の取材陣

「大久保町を農業でデザインする」その言葉には、次々とやることを組み合わせながらも、やらないことも決め、彫刻のように

大久保町を、浜松を元気にしたい。そのために：

(有)浜名ファーム

〒432-8006 浜松市中央区大久保町2840-1

TEL：053-415-8815

URL：https://www.instagram.com/hamanafarm/

創業 1995年

社員数 36名 (パート・アルバイト含む)

入会年月 2022年5月

事業内容 農業 (水耕みつ葉・トマト・露地野菜の生産・販売)、野菜直売所「ここくる」の運営

取材・記事：渡瀬 亜由子氏
(夢トロッコ・浜松支部)

取材：秋山 英正氏
(浜松資材㈱・浜松支部)
花井 純氏
(スーパージョウリಂಗ(株)・浜松支部)

うにいらぬものをそぎ落とし、スリムに、シンプルに面白くデザインしていくという意味があるそう。
大久保町は住民の約7割が農家であり、元々田んぼだった場所をみんなで開墾し、ハウスを作ったりしながら園芸栽培を一生懸命進めた地域です。「今後は、資源を最大限活かしながら生産効率をあげ、地元農家様がさらに収益を上げていけるよう、販路拡大にもっと力を入れていきたい」そう熱く語ってくれました。

会員訪問記

地域に根ざした保険代理店として新たなスタート
事業承継トラブルから独立へ、同友会で学んだ経営の基本を胸に

(株)リレイズ
代表取締役 梅田 祐希氏 (沼津支部)



梅田氏と社員の方

震災体験から保険への使命感、そして新会社設立へ

梅田氏が保険に本気で向き合おうと思ったきっかけは、2011年の東日本大震災をリアルタイムで目の当たりにしたこと。被災地を訪れた際、共済金（保険金）が単なる補償ではなく、被災者の

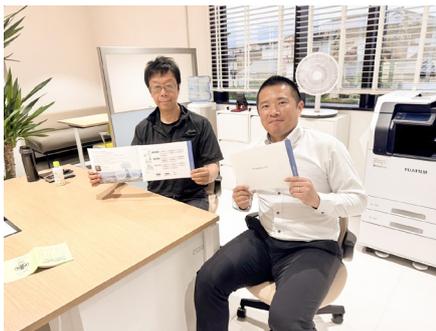
方々の生活の支えやこれから先の希望となっている現実を知り、保険を通じて人々を支えたいという使命感を持ったとのこと。

従前の会社で保険代理店業務に従事していた梅田氏は、先代からの事業承継に向けて準備を進めていましたが、話が進まない状況が続いていたそうです。その中で一

番の懸念はこのゴタゴタで仕事に注ぐべきエネルギーが落ちきってしまうことでした。会社としてのこの先のビジョンが全く描けない状況に陥り、独立を決心。当初の使命感を「保険の力で安心な毎日を作る」というスローガンに明文化し、(株)リレイズを設立しました。保険代理店の統廃合が進む中で、その流れに反して新設の乗り合い（保険会社複数社扱い）代理店設立が認められたのは、今までの実績と熱意を理解してくれた保険会社社員の方の水面下でのご尽力のおかげだと話します。

同友会での8年間の活動を振り返って

同友会に入会したのは8年前、2017年のことでした。知人の紹介でオプザーバーとして参加した際、経営について厳しく議論する光景を見て、正直「怖い会」という印象を持ったそうです。しかしその緊張感こそが、真剣に経営のために取り組んでいる証拠だと



保険の力で安心な毎日を作る



地域密着型の保険代理店をめざす

感じ入会を決意しました。入会から2年ほどで支部の企画広報委員長に就任、ちょうどコロナ禍が始まり、ZOOMを使ったことがない状況で、リモート例会やハイブリッド例会の運営をすることになりました。混乱の中でしたが、2年間の委員会で新しい例会運営の形をつくることができました。

同友会の素晴らしさは、十分に参加できない時期があっても、これまでつながりがあるため悩んだ時に相談できる人がいることです。「時には厳しい意見ももらいますが、様々な視点からのアドバイスは本当にありがたく、現在の会社立ち上げ期においても、同友会での交流と学びが大いに役立っている」と話します。

地域密着型「町の電気屋さん」のような保険代理店をめざす

現在は会社環境を一から作り、会社経営の基本を学び直している梅田氏。業界として代理店数を減らして効率化を図る流れがありま

(株)リレイズ
〒410-0022 沼津市大岡2043-1 アニュープラザ 2F
TEL : 055-955-8300
URL : <https://reraise-ins.co.jp>
設立 2024年
社員数 1名
入会年月 2017年 8月
事業内容 損害保険代理業・生命保険の募集に関する業務

取材・記事：太田 喜貴氏
(株)キラガ・沼津支部
取材：田村 雅彦氏
(株)TAMURA・沼津支部

ですが、「地元」に地に足着いた保険代理店だからこそ提供できる安心感」をしっかりと磨き、地域と共に成長していきたいと話します。
梅田氏が目指すのは、まさに「町の電気屋さん」のような存在です。保険は目に見えない商品だからこそ、わかりやすい説明と選び方が大切であり、常にお客様の立場に立ち、最適なプランを提案して納得して加入いただけるよう心がけているとのこと。年々厳しくなる業界のルールは当然に準拠させ、一方で保険会社の都合に振り回されることなく、地域のお客様を第一に考えた顧客本位の保険代理店として、地域に根差した保険サービスを作っていくと意気込みを語りました。

会員訪問記

次の10年へむけて同友会の学びを社員と共に実践し想いを残す解体業へ

旭工業株
代表取締役 大滝一成氏（静岡支部）



大滝氏（左から2番目）と社員の皆さん

変わっていった在り方、理念が会社の判断基準になった
創業から10年。同社は平均年齢30代の若手が活躍する会社です。「かつては自由すぎる社風だった」

労働委員会が主催する経営指針を創る会に参加。創る会は自身を見つめ直す時間になり、「覚悟が言葉になった」と語ります。理念には「形」は壊し「想い」を残す、粋な解体技術をお客様に提供す

と大滝氏。行動力では集まる。しかし仕事への姿勢や連携が揃わずそれが現場の荒々しさに繋がることがありました。当時を「0日で人が辞めることもあった、会社と呼べない状態」と振り返ります。「どこを見て経営しているんだ」という仲間の声。そして社員が急増したタイミングで、大滝氏は経営を学ぶため遠藤良二氏の紹介で同友会を訪ねました。入会后、理念の必要性を感じ県経営



社内を案内する大滝氏（左）

る「ことを掲げました。

経営指針作成後、大滝氏は「自分も変わるから会社を共に変えていこう」とそう頭を下げ、社員と共有した理念を基に朝礼を取り入れ、行動指針を会社の見える場所に掲示、さらに社員直筆の個人目標を会社に貼り出しました。他にも、社員の採用方針も変わりました。採用面接を大滝氏が直接行わず、社員だけで行います。社員一人ひとりととつても理念が判断のフィードバックになってきており、かつての「自由すぎる会社」は、理念の実現を会社の使命と捉えることで、行動や判断が揃う会社へと変わりました。

企業変革プログラムの定期勉強会を実施、社員と共に学ぶ

同社では毎月「企業変革プログラム」を用いて、社員と共に朝から夕方まで学ぶの時間を設けています。経営者一人が熱く語るのではなく、皆で理念を通じた在り方を考え、行動に落とし込んでいく



取材風景

文化を大滝氏は社員と共に築いています。こうした思いの背景には、中小企業問題全国研究会in愛媛への参加がありました。全国の仲間たちと広く語り合ったからこそ、自県の仲間との繋がりの強さや学びを再確認できました。そうした場に飛び込み続けることが己の中に広い視野を育て、何のために事業を行うのかということ自身や旭工業に問いかけて続けてくれると捉え、大滝氏は全国への参加意欲をさらに増しています。

経営者の実践する姿勢と社員の共感が組織を変えた

「近隣の方から、うちもお願いしたい」と言われたとき、本当に嬉しかった。そう語る大滝氏。取材に同席してくれた3名の社員は大滝氏を「良いと思うことをすぐに行動に移す、一緒にやっていきたいと思える社長」と語ってくれました。今、会社を支えるのはあくタイプな経営者一人ではなく、理

旭工業株
〒424-0023
静岡市清水区八坂北2-12-26
TEL：054-340-6622
設立 2018年6月
社員数 14名
入会年月 2024年4月
事業内容 建物、店舗等の解体工事

念を共に志す旭工業の一人ひとりです。大滝氏は学びを通して、お客様と目線が合う会社として、次の10年に歩み出しています。

取材：原稿・渡邊 且真氏（株協和・静岡支部）
取材：鈴木 竜一氏（南ススキ工房・静岡支部）
取材：藤本 浩氏（プリントバリュー株・静岡支部）
取材：望月 康仁氏（株エムテック・静岡支部）



社内に掲示した社員の直筆目標

東海財務局静岡財務事務所との意見交換会 労務費を含む価格転嫁や賃上げの現状を伝える

6月23日(月) 同友会会議室

本年度で9回目となる東海財務局静岡財務事務所との意見交換会を開催しました。

静岡財務事務所からは山口恒所長はじめ6名、同友会からは井上代表理事、松葉代表理事をはじめ7名の総勢13名が参加。はじめに松葉代表理事から「静岡同友会の歴史も50年を越え、行政機関をはじめ、金融機関や教育機関の皆様との関係性が深まっていると実感しています。本意見交換会が同友会3つの目的のひとつである『よい経営環境をつくろう』を実現するための契機としていければ幸いです」とあいさつ。続いて山口所長から「トランプ関税や不安定な中東情勢による原油価格の高騰など地域や企業を取り巻く環境は不透明さを増しています。中小企業や地域の課題解決に貢献できるよう、本意見交換にて中小企業の実態を伺えればと思います」とあいさつ頂きました。



山口所長



松葉代表理事

続いて山田尚子政策委員長より第52回景気動向調査の中間集計を報告の意見交換では「自社の景況感、労務費を含む価格転嫁、

賃上げの現況と課題認識」を主なテーマに参加会員の近況や取組、課題を報告。企業からの声として「長期化する人手不足への対応として外国人技能実習生の雇用を検討している」「仕事はあるが人手不足で断らざるをえない状況」「金利の負担増が経営に影響している」「価格転嫁を進めているが売上の上昇に繋がっていない」「中小企



9回目となる財務事務所との意見交換会

業が成長し地域が豊かになることが自社や業界の価値になる」などが挙げられました。最後に宇佐美副代表理事から2026年に開催される第58回定時総会in静岡についてPRし「引き続き静岡財務事務所の皆様と連携を深めると同時に会内で連携することの意味や魅力を伝え、よりよい地域づくりに繋がっていきたい」と伝え、山口所長からは「同友会の会員の皆さんは日頃の学びを通じて経営者として何をやるべきなのか会社は誰のためにあるのかをはっきりしているのだから感じた。地域との日常的なコミュニケーションを深め、今後の施策に繋がっていきたい」とあいさつを頂き閉会しました。

※敬称略・6/23時点

| 静岡財務事務所 | 氏名 |
|---------|-------|
| 所長 | 山口 恒 |
| 総務課長 | 川上 正人 |
| 財務課長 | 勝治 裕視 |
| 理財課長 | 倉地 徹 |
| 管財課長 | 坂下 豊幸 |
| 企画係長 | 大橋 沙織 |

第22期経営指針を創る会 受講生10名で開講
経営指針作成を通して
自身・自社を見つめ直す
6月14日(土) 静岡へガサート

第22期経営指針を創る会(以下、創る会)が受講生10名でスタートし、第1講には修了生も合わせて30名が参加しました。はじめに、受講生から創る会参加に向けた意気込みや現在の経営課題について発表。その後、経営労働委員長の宮田博文氏(㈱ミヤタ印刷)より経営理念について「経営理念は会社の『存在理由』であり『方向性』である」と話がありました。続いて修了生の古川徹氏(㈱フルカワ)より労使見解について、創る会会長の中村佐和子氏(㈱フラワースカス)より自社事業定義について報告し、バズセッションを行いました。バズセッションでは、会社経営の中で、社員の成長が見られたときや社員が達成感を感じることが経営者の喜びに繋がると共有されました。

閉会挨拶では、創る会前会長の山本健二氏(㈱日本スエーデン)より「受講生と修了生との討論を通して自分の在り方を見つめ気づきと学びを得る場にしていきたいと思います」と話しました。創る会ではこれから11月まで全10講を通して経営指針を作成していきます。



第22期受講生のみなさん

見て・聞いて・話して学んで実践！役員研修会

6月17日(火) レイアアップ御幸町ビル

役員研修会が開催され、県理事や各支部の役員を中心に53名が参加しました。第1部では「同友会の仲間づくり」同友会活動と企業経営は車の両輪」をテーマに愛知同友会・元会員増強推進本部長の矢田賀也氏(株サン・エネルギー・サービス)が報告、第2部では「同友会と企業づくり」を生かす経営・労使見解」をテーマに広島同友会・代表理事の立石克昭氏(株タテイシ広美社)が報告し、両者より同友会理念を自社に落とし込み「人間尊重」の経営をしていること、また役員姿勢として、運営に終始せず経営課題を語り合う「経営の匂いのする同友会」を創っていかうと共有されました。その後グループ討論と懇親会で学びをさらに深め、役員として「学んで実践」することの大切さを実感した研修会となりました。

【参加者感想】

矢田氏の講義では、経営指針と経営理念を分解し、会社と同友会に落とし込み、自社を成長させてきました。特に人を生かす経営は、労使見解を真ん中に置くことで、あらゆる組織に生かすべき普遍性があることを、分かりやすく論理的に示して頂きました。懇親会で会員増強について聞いたところ、自社の営業よりも同友会を広めることで、売上も上がっていったそうです。



立石 克昭氏



矢田 賀也氏

第1部、第2部ともに講演の動画はeido youより全会員に配信しています。ぜひご覧ください！

立石氏の講義では、失敗も成功に繋がるヒントを得たというポジティブな思考で、全てが良い方向に転がる法則を教えてくださいました。夫婦を始め、現在は100名を超える企業となった同友会では、社員自らが目標設定し、一人一人が輝けるような会社作りをされています。以下に、この日の学びをすぐに思い出せるキーワードを記します。「同友会には5年前と10年先の自分がある」「庄屋の娘でも言うてみにゃわからん」「いころところに人は集まる！」、また最後に両名の話で共通していたのが、事務局にある情報をもっと活用すると良いということでした。

江間 省豪氏

(県組織増強委員長・データマイン(株))



熱気溢れるグループ発表

矢田氏・立石氏の講義において共通するのは「人間尊重の精神」と「目的の明確な伝達」であり、「人を生かす経営」の実践そのものであると同時に、よい会社を作るうえでの必須事項だと感じた。それがまた同友会らしさであるが、いざ実践となると、相当な「覚悟」が必要になる。人との違いを認め「許すこと」や、どんな環境に於いても「社員に夢を与える」と言うのはある意味「究極の主体性」でもある。

今回の報告の中で一番学びを得たことは「いかにわかりやすく相手に伝えられるか」だ。「タクシーの運転手と乗客の話」は目から鱗だった。「行き先を告げない乗客は不安でしかない」てっきり自身が運転手のつもりでいたが、その考えが全く真逆で

あったと同時に、平仄があった思いであった。「庄屋の娘も言うてみにゃわからん」も、勝手にハードルを上げてるのは自分等であり、ハードルそのものだと言うのも納得。やはり言葉は大切であり、相手の心の琴線に触れることが出来なければ何も伝わらぬのだと、そして、同友会を骨までしゃぶる姿勢で活動して行かねばならぬのだと、そう学びました。

最後に「経営の匂いのする会運営」を、そして「役員は商品見本である」ことを意識し、役員として、単なる数合わせの増強にならないように運動していきたい。

鈴木 高史氏

(富士宮支部長・有鈴木製作所)



懇親会 集合写真

| | |
|--------------|--|
| 7月 16日(水) | 沼津例会 (19:00 プラサヴェルデ) |
| 17日(木) | 中遠例会 (19:00 ワークピア磐田) 榛南例会 (18:45 牧之原市商工会) |
| 18日(金) | にじいろ共生委員会主催 東部地区関係機関との交流・意見交換会 (19:00 プラサヴェルデ) |
| 22日(火) | 県例会企画委員会 (18:30 ZOOM) 県政策委員会 (景況執筆者会議) (18:00 同友会事務局&ZOOM) |
| 23日(水) | 志太納涼例会 (18:30 魚時会館おさかな亭) 第6回全県経営フォーラム実行委員会 (18:00 ZOOM) |
| 24日(木) | 県理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) |
| 25日(金) | 同友会オリエンテーション (19:00 ワークピア磐田&ZOOM) |
| 26日(土) | 第22期経営指針を創る会④ (13:00 ペガサート静岡) |
| 29日(火) | 三島例会 (19:00 三島商工会議所) よい経営環境をつくろう学習会 (16:15 ペガサート静岡) |

| | |
|-------------|---|
| 30日(水) | 県組織増強委員会 (18:00 同友会事務局&ZOOM) |
| 31日(木) | 富士例会 (19:00 ロゼシアター) |
| 8月 5日(火) | 県青年部連絡会 (19:00 同友会事務局&ZOOM) 静岡納涼例会 (19:00 グランディエール・ブケトーカイ) 富士宮納涼例会 (19:00 志ほ川バイパス店) |
| 6日(水) | 中同協 組織強化・会員増強全国交流会 (13:30 オンライン&東京サテライト会場) |
| 7日(木) | 浜松納涼例会 (19:00 未定) 正副代表理事会 (15:00 同友会事務局&ZOOM) |

《 あなたのスケジュールノートに
必要事項をご記入ください 》



報告者の深沢麻衣子氏

報告終了後は「オンとオフの切り替えをどうしていますか？自分時間をつくるための工夫」についてグループ討論を行い、仕事に家庭に忙しい中で各々がやっている切り替え方法に「私も今日からやってみよう！」とダイヤモンドカレッジらしいバズとなりました。

自身や業務について見直しを行い、オンオフを上手に切り替えている深沢氏や皆さんの話を聞き、業務に追われオンオフの切り替えができていない私は自身についても考えることが必要と感じました。

植松昌氏 (株)植松設備・富士支部

第15回 ダイヤモンドカレッジ
「つくるにつくす技術集団」
社員が安心して成長できる会社へ

6月13日(金) 静岡市清水産業・情報プラザ

今年度初のダイヤモンドカレッジが開催され、今期より女性部会長に就任した(有)深沢製帆店 取締役 深沢麻衣子氏が報告しました。(有)深沢製帆店は、テナント倉庫用の外被や工場内間仕切りカーテン等を主に製造しています。

10年前に経理担当として入社したのちに、事業承継を決意した深沢氏。2021年に同友会に入会し、経営指針を創る会で得た多くの学びを会社で即実践、長時間残業の見直しや土日休みの導入を実施し働きやすい職場づくりに取り組みます。求人課題に対しては、求人ターゲットを子育て中の女性とシニアに切り替え。また、様々な社内講習会を行って社員のやる気を引き出すなど、人を力ではなく育てる対象とし、社員が安心して成長できる環境づくりを行っています。「つくるにつくす技術集団として、ものづくりでお客様の大切も守りたい」と語る深沢氏を見て、シート業界にも新しい風が吹くのではないかと感じました。